



心臓の肉腫

(しんぞうのにくしゅ)



※内容を簡素に記載しております。詳しくはHPをご覧ください。

心臓にできる腫瘍

全身に発生する腫瘍について、臓器ごとの発生頻度を調べたときに、心臓から発生する頻度は0.1%以下と非常にまれではあるものの、心臓からも腫瘍が発生します。また、心臓にできる腫瘍のうち約70%は良性腫瘍で、悪性腫瘍は約30%程度とされています。

良性腫瘍の中では粘液腫という腫瘍が最も多く良性腫瘍の50%程度で、心臓腫瘍全体の30-40%を占める割合となります。粘液腫以外の良性腫瘍には、脂肪腫、乳頭状弾性線維腫、横紋筋腫、線維腫、血管腫、奇形腫などがあります。これら良性腫瘍は、症状の有無や腫瘍塞栓のリスクに応じて手術の適応を判断します。

心臓にできる悪性腫瘍は、原発性（心臓から発生するもの）のものと転移性（他の臓器に発生した腫瘍が心臓に転移するもの）のものに分類されます。

心臓にできる肉腫とは

心臓にできる肉腫自体非常にまれな疾患ですが、さらに4-50%程度が内膜肉腫、25%程度が血管肉腫、20%程度が未分化肉腫、その他滑膜肉腫、平滑筋肉腫などに分類され、その多くが血管を発生母地とします。

心臓にできる肉腫の発症年齢は、他の臓器にできる肉腫と比較して若年齢で発症し、さらに治療成績が他の臓器に発生する場合よりも悪いことが分かっています。

検査・診断・治療について

心臓にできる肉腫の主な症状として、階段昇降などの軽い運動での息切れ、動悸、顔面や上半身のむくみ（浮腫）などの症状が見られることがあります。

腫瘍の存在そのものは、心臓超音波検査やCT検査などで容易に分かりますが、腫瘍の質的診断、つまりどのタイプの腫瘍であるかは、生検または切除による病理診断で確定します。

●肉腫（サルコーマ）についてはこちらをご覧ください。

<https://www.ncc.go.jp/jp/rcc/about/sarcoma/index.html>

